



建設情報誌

C-net通信

Construction

Vol. 503

さが

『C-net通信』で **検索**

2020年9月16日
(毎週水曜日発行)

<http://www.nsci.co.jp>

発行所：(株) NSC 佐賀市日の出1丁目16-19
TEL 0952・97・9643 FAX 0952・97・9647

防災と空間技術で講習会

災害対策、センシング技術など学ぶ

県地質調査協会と県土コン協会

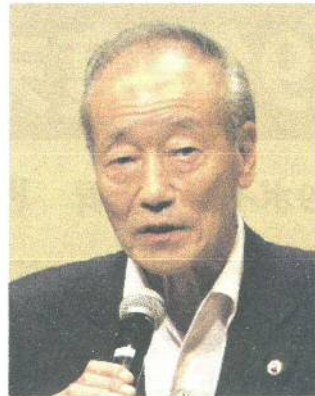
(一社)佐賀県地質調査業協会(原裕理事長)と(一社)佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会(佐々木義文会長)は3日、2020年度「防災と空間技術」講習会を佐賀市のアバンセで開催した。建設関係企業や自治体の職員など約90人が参加。激甚化する土砂・河川災害、多種多様なセンサーを用いて空間情報を計測・数値化するセンシング技術などに関する講演が行われた。

原理事長は開催に当たり「本日の講演では土砂災害や河川洪水の対策、新しい空間センシング技術などを紹介する。増大する災害に対する知見を磨き、県土の保全や防災対策に役立ててほしい」とあいさつした。

まず、アジア航測(株)執行役員の岡本敦統括技師長が「激甚化する土砂災害とその対策」について講演。19年は台風による土砂災害が過去最多の962件発生したことを挙げ「土砂災害警戒区域に指定されていない個所の災害が増加している。気温上昇による洪水も懸念されるため、今後の水防対策は国や県、市町、企業、住民を含めた流域治水への転換が求められている」と話した。

同社福岡支店の石橋浩顧問は「九州地方における河川事業と最近の話題」で講演し、九州地方の降雨と地質の特性を解説。梅雨性や台風性の降雨、花こう岩が風化した「マサ土」などの地質特性を踏まえた上で、堤防強化や軟弱地盤対策、流出する土砂の管理対策が重要と指摘した。

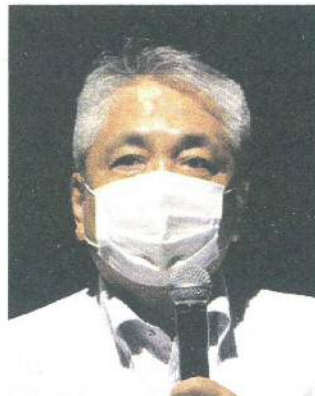
同社の島周平九州支社長は「最近の国土空間情報にかかわるセンシング技術」について講演。現在の3次元計測



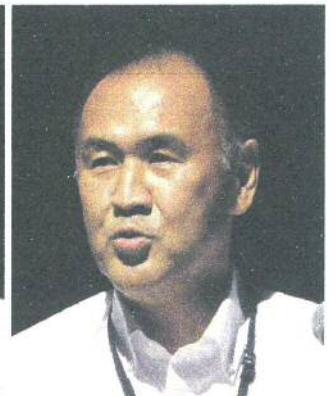
原裕理事長



岡本敦統括技師長



石橋浩福岡支店顧問



島周平九州支社長

ではUAVカメラやUAVレーザなどの多種多様なセンサーが使われており、モバイルマッピングシステムによる自動図化、空間情報処理にAI(人工知能)技術を実装した自動判読など最近の事例を紹介した。

このほか、原理事長が「佐賀県豪雨災害と環境負荷低減」と題して講演を行った。

【9月7日HP掲載】